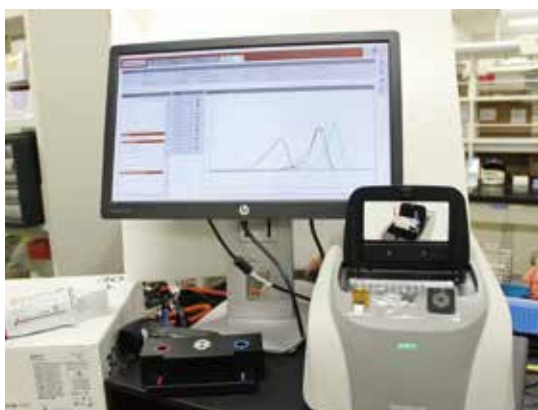




SPECIAL
FEATURE

特集

各学科・専攻が誇る

実習器具・設備ベスト3

医学検査学科

看護学科

リハビリテーション学科

理学療法学専攻

作業療法学専攻

言語聴覚学専攻

CONTENTS

- 2~5 実習器具・設備ベスト3
- 6~7 News & Topics
- 8~9 実習体験レポート、研究ノート
- 10 OB・OG就職活動ルポ
- 11 国際交流・クラブサークル紹介・Library
- 12 コラム・基本理念・教育目標・熊本大夢基金

《医学検査学科》

1

多項目自動遺伝子検査機器

BioFire FilmArray

●使用する実習：微生物検査学実習

BioFire FilmArrayはPCR技術をベースにした分子診断装置です。血液培養、髄液、鼻咽頭ぬぐい液・糞便等の患者さんの検体からダイレクトに多数のウイルス・細菌・薬剤耐性遺伝子を同時に検出できます。操作が簡易で、2分程度の準備と約1時間の測定で結果がでます。ヒューマンエラーが少なく、迅速かつ包括的な検査により臨床判断・抗菌薬適正化に大きく貢献できる機器です。

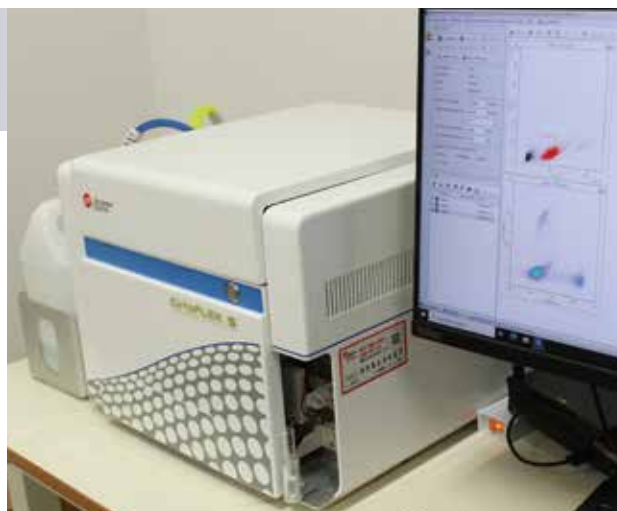
2

フローサイトメーター

CytoFLEX

●使用する実習：輸血・移植検査学実習、血液検査学演習

細胞や微粒子を1つずつ高速で解析する装置です。蛍光色素で標識した細胞や微粒子にレーザー光を当て、生じる蛍光の強度や散乱光の情報から、それらの大きさ、内部構造、タンパク質発現などを定量的に評価することができます。



3

連続分注ピペット

●使用する実習：生化学実習、一般検査学実習、臨床化学検査学実習

一度の吸引で複数回の分注が可能のため、多検体処理を短時間でできる便利な機器です。そのため、学内実習での検体の分注作業が大幅にスピードアップします。また、ワンタッチ操作で吸引・排出ができるため、手首の疲労を軽減してくれます。面倒で手間のかかる作業から解放してくれる機器です。



本学は、それぞれの学科・専攻に合わせた最先端の教育研究設備を整えており、実際の医療現場に近い実習室や、高度な研究を支える器具や機材が、学生たちの夢の実現をサポートしています。数多くの機材の中から、今回は各学科・専攻が誇る実習器具や設備のベスト3をご紹介します。

Training
equipment and tools
BEST 3

《 看護学科 》

1

フィジカルアセスメントモデル

Physiko (フィジコ)

心音・呼吸音・腸音の聴診、血圧測定、瞳孔反射の観察などの学習に活用されています。実際の患者さんに実施する前にPhysikoでフィジカルアセスメントを行うことで、実習前の緊張を和らげることもつながっていると思います。看護学科の学生は、Physikoに胸を借りて実習に臨んでいます。



2

実習室

3号館建設時に看護学科教員の意見を取り入れて設計された実習室です。設備とともに看護や治療に使用される多くの物品も保有し、病室や居宅での看護の実際について学内で学習できるように、また、大人数の学生が一度に演習できるように工夫されています。



3

エルダートライ

高齢者にならないと理解できない身体機能の低下を体験できる高齢者疑似体験セットです。大学内の利用だけでなく、オープンキャンパスや小・中学生対象の「からだのふしぎ探検」でも活用されています。からだの変化を体験することを通して、高齢者の気持ちに寄り添い、接し方を考えるきっかけを作っています。



リハビリテーション学科
《理学療法学専攻》

1

BIODEX system4

様々な部位の筋力を測定することができ、最大筋力の測定に加え、動かす速さや筋の収縮様式(伸びながら、短縮しながら、長さを変えないで)などを加味した様々な筋力を正確に測定することが可能です。測定データは、左右の比較、筋肉別のバランス、パフォーマンスとの関連などに活用できるため、臨床現場やスポーツ現場での応用可能な知見の提供に役立てています。



2

InBody

筋量・体脂肪量などの項目から患者様の栄養状態やリハビリ効果の評価に活用されます。また、SMI※を用いて高齢患者の合併症や予後と密接な関係があるサルコペニアの評価も可能です。さらに、アスリートではコンディショニングにおいて、筋量、体脂肪量、水分量などを数値化し、部位ごとの筋量や左右のバランスも分析できます。※SMI(Skeletal Muscle Mass Index: 骨格筋指数)とは、「四肢の骨格筋量(kg) ÷ 身長(m)²」で算出



3

超音波治療器

超音波は、人の耳に聞こえない高周波の音波のことを指します。理学療法関連分野では、超音波が出す振動による温熱効果や微小マッサージ効果(機械的作用)で、血行促進、炎症緩和、細胞の活性化などを促し、筋肉痛、打撲、捻挫、肉離れなどの急性・慢性期の痛みを改善することを目的に使用します。その他、関節可動域の改善、骨粗鬆症の治療などにも応用できる医療機器です。



リハビリテーション学科
《作業療法学専攻》

どれも大切なものなので
順位をつけられませんでした(専攻長)

1

薬草園・コミュニティーガーデン

九州の作業療法士養成校としては最大級の園芸実習スペースで、作業療法の原点ともいわれる「園芸・農作業」を体験的に学ぶことができます。基礎作業学技法などの講義・演習の中で、学生が協力して栽培したり、栽培した作物を使って調理をしたりと、障害に応じた作業の工夫や心身に与える治療的効果を考察します。中心にあるピザ窯は専攻の学生が試行錯誤しながら作ったもので、SG会や学園祭などの活動でも利用されており、地域の方々や教職員・学生など様々なコミュニティーが交流するガーデンです。



リハビリテーション学科 《言語聴覚学専攻》



聴覚検査機器

言語聴覚学専攻には、成人から小児まで年齢に応じた聴覚検査機器が充実しており、聴力の評価に加え、耳(中耳・内耳)の機能を確認することも可能です。

また、学内外の「聞こえ」に関する相談にも対応しており、実践的な学びの機会となっています。今後は他覚的聴覚検査機器の導入を予定しており、学生にとってより良い学修環境が整います。学生は充実した設備を活用し、言語聴覚士としての専門的技術を実践的に修得しています。



超音波検査機器 (GE Healthcare)

言語聴覚療法における超音波検査は、嚥下関連筋の筋量や筋の質を評価できる比較的新しい評価法です。そのため、本専攻では演習や卒業研究などに利用しています。加齢に伴う筋の変化や訓練効果を検証できるだけでなく、最近では嚥下時の喉の動きや食物の残留を評価する手段としても利用できます。



小児検査用具 (日本版 KABC-II)

言語聴覚士が関わる小児領域では、幼児期の言語発達、コミュニケーション支援だけでなく、小学生以降の学習支援も行っています。学習のどのような部分に課題があるのか、対象の子どもはどのように物事を捉えているのかを明らかにすることが学習支援の第1歩です。そこで使用するのが『日本版KABC-II』という検査です。この検査を通して、子どもたちだけでなく、保護者や学校の先生との情報共有がより具体的になります。

*今回、丸善出版株式会社の許可を得て掲載しております。



陶芸実習設備

木工作业に必要な道具とともに、陶芸に必要なろくろや成形作業に必要なへら一式、様々な色の釉薬も取り揃えています。また、大型の電気窯も有しており、学生の手で窯入れから焼成・窯開きの作業が体験できます。陶芸実習設備は「出来上がった陶芸作品が、思っていたのと違う仕上がりであっても、それもまた良い(人生)」と様々な生き方を肯定する作業療法士としてのマインドを育む場所だと思っています。



発達障害学実習室

子どもの作業療法を行うために設けられた本学のプレイルームです。さまざまな感覚刺激や運動の経験を引き出せる遊具をそろえ、遊びながら自然に身体機能や感覚機能の発達を促せる環境を整えています。学生にとっては、自分たちでも体験しながら学べる場となり、将来の臨床につながる「観察する力」や「関わり方」を実践的に身につける機会となっています。



News & Topics

Did you 杏 joy ?

第49回杏祭が令和7年10月17日(金)、18日(土)の2日間、開催されました。今年のキャッチフレーズは「Let's 杏 joy! 〜カルテに刻め皆の想い」。ステージ発表、文化展に模擬店と、学生たちの趣向を凝らしたイベントが目白押しで、両日ともキャンパスはお祭りムードに包まれていました。

ステージ最大の呼び物となったダンスクラブ mimic は前祭、本祭の両ステージに登場。若さの躍動に客席も大きな盛り上がりを見せました。また、文化展(本祭)では、コロナ禍で中断していたおばけ屋敷が復活。順番待ちの行列の中には、親子連れの姿も。一方、屋外に目を転じると、KMバイオロジクスアリーナ横の芝生広場では、学内に設置されている窯で焼きあげたピザをはじめ、焼きそば、焼き鳥など12の模擬店が並び、どこも大盛況。会場いっぱいにお客を呼び込む元気な声が響いていました。

1年次生と2年次生からなる杏祭実行委員会は、3月から約8カ月をかけて伝統の学園祭を企画してきました。その奮闘ぶりを動画にしてオープニングとフィナーレで上映し、盛んな拍手を受けていました。



第49回杏祭

杏祭



新理事長に竹屋氏就任 学長兼務「大学運営の安定的発展に全力」



令和3年3月から理事長を務めてきた木下統晴氏(76)が令和7年6月18日(水)の定時評議員会終了時をもって退任し、同日付で現学長の竹屋元裕氏(72)が理事長に就任しました。任期は2年。今後は学長と兼務することになります。

竹屋氏は、熊本大学大学院生命科学研究部長・医学教育部長・医学部長(併任)を経て平成27年に同大で理事・副学長に就任。同31年からは本学の学長として大学運営にあたっています。

理事長に就任した竹屋氏は「これまで6年間の学長経験を活かし、教育の質の向上とともに、大学運営の安定的発展に向けて、全力を尽くしたいと存じます。なにとぞ前理事長同様、よろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます」とコメントしました。

「KMバイオロジクスアリーナ」 ネーミングライツ契約記念式典

本学とKMバイオロジクス(熊本市北区、高橋洋匡社長)が、本学アリーナのネーミングライツ事業実施契約を締結し、令和7年10月1日(水)から10年間、同施設の名前は「KMバイオロジクスアリーナ」となりました。

10月7日(火)に行われた記念式典には、関係者約20人が出席し、竹屋元裕理事長・学長が「アリーナは、授業、実習、部活動に使われるだけでなく、災害時には熊本市の避難所にも指定されています。また地域にも開放し、連携協定を結ぶさまざまなスポーツチームや障害スポーツ団体にも利用してもらっています。これを機に、さらに多くの方に利用していただきたいと思います」とあいさつ。高橋社長は「(今回契約は)熊本保健科学大学との協力関係を象徴しており、学生や地域とのつながりをさらに深めたいとの思いも込めています。今後とも大学との協力関係がこの地域にとって意義のあるものとなるように願っています」と述べました。



大盛況のオープンキャンパス

令和7年度のオープンキャンパスが7月20日(日)と8月24日(日)に開催され、合計1983人が本学を訪れました。模擬実習では、各学科・専攻が工夫を凝らした内容が盛りだくさん。実習器具を使った検査や測定などの体験や、ゲーム形式の実習も目白押しで、訪れた高校生たちは興味深そうに取り組んでいました。また、ピア・サポーターや協力学生たちも大活躍。

学内ツアーの先導、恒例の「先輩と話してみよう」コーナーでの相談役、模擬実習のサポーター役などを務め、高校生からは「優しくて親しみやすい先輩ばかりで安心した」などの感想が聞かれました。



3年目を迎えた阿蘇プロジェクト

本学と阿蘇市および阿蘇中央高校の三者が協力して取り組む「阿蘇プロジェクト」の令和7年度第1回健康測定会を令和7年6月10日(火)、阿蘇市の阿蘇中央高校体育館で開催しました。プロジェクトは、同市民の健康寿命の延伸を目指す取り組みで、今年度で3年目。今年度の第1回健康測定会には、過去最多の46人の市民が参加しました。測定・検査は、本学リハビリテーション学科2年生51人と阿蘇中央高校2年生44人が担当。高校生と大学生による参加者への検査の説明はとても丁寧で、検査も正確でした。



高森高校マンガ学科制作「リハビリのお仕事」

リハビリテーションの専門職を紹介するマンガが完成し、令和7年11月4日(火)、竹屋元裕理事長・学長、古閑陽一特命副学長らが高森高校を訪れ、感謝状を贈呈しました。マンガは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といったリハビリ専門職の認知度を上げようと依頼したものです。けがをした主人公の回復までの日々を通して、リハビリの奥深さや支える専門職について描いています。制作した生徒たちは、専門的な講義を受講し、病院を訪問するなど、「この仕事を知ってほしい」という思いを持って取り組みました。



熊保大学生夢支援制度「夢サポ」創設

本学は、令和8年度から熊保大学生夢支援制度「夢サポ」を創設し、新入生向けの奨学制度や在学生向けの支援制度等を大幅に拡充します。「夢サポ」は、文字通り学生の皆さんの「夢」を「サポート(支援)」したいという思いから命名されました。

新入生向けの奨学制度は、現行制度を大幅に見直し、対象者を各学年46人から最大65人と大幅に増やし、より多くの学生を支援することになります。また、在学生向けの支援制度についても、これまでの制度を拡充するほか、資格等取得奨励金制度の導入や、家計急変が生じた学生への緊急給付金制度の新設等も予定しています。



「第4回からだのふしぎ探検」大盛況

子どもたちに人体の仕組みや医療について楽しく学んでもらうイベント「第4回からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」が令和7年8月9日(土)に開催され、279人が訪れました。当日は1号館と図書館内キャンパステラスの2会場4つのエリアで、計19の体験ブースを設け、子どもたちは、実験やゲーム、寸劇など工夫を凝らしたイベントに目を輝かせていました。「お兄さんやお姉さんが優しく教えてくれて楽しかった」、「わくわく劇場が面白かった」といった声が寄せられました。



協会けんぽ熊本支部と包括連携協定

本学と全国健康保険協会(協会けんぽ)熊本支部が令和7年10月31日(金)、熊本県民の健康づくりに向けた包括連携協定を結びました。保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う本学と、加入者の健康づくり事業を行う協会けんぽ熊本支部が、互いに保有する人的資源や情報を有効活用し、健康診断や医療費のデータ分析や調査研究を行うことで、県民の健康づくりに寄与していくための事業連携を目的としたものです。働き盛り世代の多い協会けんぽ加入者に対して、「食・運動・医療」など多角的な観点での、健康への意識付けを進めていくことが求められています。



若い力で駅のにぎわいづくり

JR九州熊本支社の「駅のにぎわいづくりパートナー校」に本学が認定され、令和7年11月20日(木)、本学で認定証授与式が行われました。「パートナー校」の認定は、「住みたい・働きたい・訪れたい」まちづくりを目指す熊本支社が独自で行っている取り組みです。これからの熊本を支える学生らと連携し、駅及び駅周辺のにぎわいを創出しようと企画したもので、本学は7番目の認定となります。授与式に参加した学友会の学生は「健康づくりに関するイベントなど、地域を巻き込んだ企画を考えたい」と、今後の活動に向けて意欲を示していました。



木下前理事長 退職講演会

令和7年6月18日付で退任した木下統晴前理事長の退職講演会が7月10日(木)に行われ、「すべての原点」とする大学、明治製菓などを経て、化血研の事業譲渡に至る自身の軌跡を概観しました。令和3年3月に理事長就任以来手掛けてきた共同研究講座の開設、民間・企業・行政のトップ級人材の招聘、包括連携協定の締結などについて、改めて狙いや効果を検証。最後に集まった教職員に「改善の文化と風土を築きリーディング大学の一つとなることを目指して」とエールを送りました。





実習体験レポート

1年次から4年次まで、実践レベルの技術や知識を習得するために、段階を踏んだ実習があります。学科専攻によって内容は異なり、実際に現場での実習を体験することで、自分の将来を具体的にイメージすることができます。今回は7人の学生の実習体験を紹介します。実習を通して学んだことや感じたこと、実習中の気分転換の方法から後輩の皆さんへのアドバイスまで幅広く答えていただきました。

①実習を通して学んだこと ②実習中の気分転換 ③後輩へのアドバイス



医学検査学科 3年
山下 風介さん

安心して検査を受けてもらえるような配慮を

- ① 臨地実習を通して、臨床検査技師が検査を実施してから結果を報告するまでの一連の流れや、患者接遇の重要性について学びました。検査結果は、医師の診断や治療方針に大きく関わるため、強い責任が伴い、検体を一つ一つ丁寧に正確に取り扱い、決して間違いのない結果を報告しなければならないと改めて感じました。また患者接遇においては、検査に対する不安を抱える患者様の気持ちを考え、優しくわかりやすく声掛けを行うことで安心して検査を受けてもらえるように配慮することが重要だと学びました。
- ② 実習中は、友人とご飯を食べに行ったり、軽い運動をしたりと、気分転換していました。
- ③ 臨地実習では、大学の講義や学内実習では学べない多くのことを経験できます。受け身で話を聞くだけでなく、自ら積極的に行動し、疑問点は質問することが大切だと思います。また、意欲的に臨地実習に臨むことでより多くの知識を学ぶことができると思います。体調管理に気を付けて実習を楽しんでください。

治療だけでなく退院後を見据えた視点の重要性

- ① 治療だけでなくその後の生活を尊重し、治療との折り合いをつけながら支援することの重要性を学びました。どの患者様にも仕事や趣味など、その人らしい生活があるため、入院中だけでなく退院後もその生活を続けられるよう、治療と生活を関連づけて考える視点が必要だと感じました。また、その実現には多職種と連携し、患者様を包括的に捉えて一貫したケアを行うことが大切であると学びました。
- ② 実習中は友達とご飯を食べに行ったり、ドラマを見るなど自分の時間を作って気分転換していました。
- ③ 実習は不安も多いと思いますが、仲間や支えてくれる先生がそばにいますので大丈夫です。記録も「何を理解したいのか」という目的を見失わずに書き進めると、自分なりの学びや考えが見えてくると思います。大変なこともあります、一人ではないので安心して頑張ってください！



看護学科 3年
倉崎 萌花さん



リハビリテーション学科
理学療法学専攻 3年
田中 李佳さん

共に頑張っている仲間と支え合いながら頑張る

- ① 臨床実習では、情報から評価項目の抽出、評価の実施、アセスメント、プログラム立案、介入までの一連を実際に行いました。その中で、自分自身の知識不足、技術不足を痛感しました。指導者の先生から指導をいただく中で、患者様とのコミュニケーション、評価結果を関連させて考えることの大変さと重要性を学びました。また、患者様一人ひとり環境や症状が異なるため、患者様の置かれている状況まで視野を広げ目標やリハビリを提供することが大切であると学びました。
- ② 休日は友達と話したり外出をして映画を見たりするなど気分転換をしていました。
- ③ 実習では緊張や不安があると思いますが、共に学んでいる仲間と支え合いながら頑張ってください。また、疑問に思ったことを質問することや、アセスメントなど積極的に取り組んで指導者の先生から助言をいただくことで、臨床での考え方を学ぶことができます。普段の講義では学べないこともたくさんあるので、体調に気をつけながら実習を楽しんでください。

笑顔が生む安心

- ① 実習を通して、作業療法は活動内容だけでなく、対象者とのように関わるかが重要だと感じました。できていない点ではなく、できていることや取り組み姿勢を認める受容的な関わりにより、対象者が安心して活動に参加し、自己表出が徐々に増えていく様子を学びました。身体機能だけでなく、集中力や気持ちの状態にも配慮することが大切です。また、疾患や個人特性に応じた声かけや傾聴の工夫も重要で、その人に合ったプログラムを考えることの大切さも実感しました。
- ② 実習中は友達と出かけて気分転換したり、家でNetflixを見てゆっくり過ごしたりする時間も大切にしていました。
- ③ 実習では、患者様やスタッフに笑顔で挨拶し、素直に関わることが大切です。笑顔で接することで、患者様も安心でき、信頼関係が自然と築けます。分からないことはためらわず相談し、小さな気づきや経験を学びに変えていきましょう。大変なこともあります、学びや楽しい発見に出会えるはずです。前向きに取り組んでみてください。



リハビリテーション学科
作業療法学専攻 3年
緒方 風羽さん



リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 3年
佐々木 楓さん

適切な声掛けをしよう

- ① 今回の実習では患者様の評価、訓練の一部模倣・実施をさせていただきました。患者様によって訓練の内容やペースが異なるため、教示の仕方や状態への配慮が特に難しく重要だと実感しました。また、患者様と接する際に初めて経験することも多く、緊張してしまい自分のことで精一杯になってしまいました。そんな中でも、患者様と丁寧にコミュニケーションを取るなかで段々と緊張が和らいでいき、患者様に寄り添って関わることができたと思います。
- ② ジムで体を動かしたり、バイクで阿蘇や天草に行くことで気分転換・リフレッシュしていました。
- ③ 慣れない場所で初めてのことも多く、わからないことがあると思います。先生に質問する時は、はじめに自分の意見を述べるとより理解を深めることができると思います。訓練時間経過での変化や1～2週間前と比較すると観察するポイントも増えて、患者様のことをより理解することができると思います。指導してくださる先生方と患者様への感謝を忘れず、体調に気をつけて頑張ってください。

地域の特性を踏まえた公衆衛生活動の重要性を実感

- ① 地域の特性を踏まえた公衆衛生活動の重要性を実感しました。住民一人ひとりの生活背景を丁寧に把握し、多職種と連携しながら支援を調整する保健師の役割は、地域において非常に大きいと感じました。また、限られた資源の中でも地域の力を引き出し、支援体制を整えていく姿から、行政保健師に必要なマネジメントの視点も学びました。住民に寄り添い、継続して関わる姿勢の大切さを再認識した実習でした。
- ② 実習中は、好きなお笑い芸人のYouTubeを見たり十分に睡眠をとったりして、心身のリフレッシュを心がけていました。
- ③ 1年間という限られた時間だからこそ、わからないことはそのままにせず、積極的に質問する姿勢が大切です。無理をしすぎず、自分のペースで1日の振り返りの時間をつくることで学びが深まります。先生方はとても優しいので、安心して成長を実感できる学生生活になると思います。気持ちが疲れたときは、好きなことに触れてリフレッシュしながら頑張ってください。



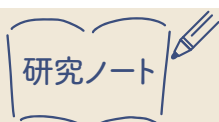
公衆衛生看護学専攻科
中根 麻緒さん



助産別科
大垣 愛美さん

助産別科一丸に志高く

- ① 妊娠・分娩経過を多角的に捉え、母子の生命を守る専門性やチーム医療における役割について学びました。また、妊娠・出産を人生の節目とし、産婦さんとご家族が肯定的に出産体験を受け止め、育児へつなげられるよう支援する重要性を痛感しました。さらに、妊産婦の声を施策に反映し地域に根差した支援を展開することや母乳育児支援・育児相談により産後ケアを行うことの実際と地域で活躍する助産師の方々について学びを深めました。
- ② 実習メンバーと昼食を食べる時間や他愛のない話をして笑う瞬間が、何より気分転換となっていました。
- ③ 助産別科での多くの学びや大学内外での経験が、実習に活きたと感じます。先生方を含め助産別科一丸となり、志高いメンバーと切磋琢磨しながら充実した日々が送れました。皆さんの頑張りは、きっとご自身の強みになると思います。仲間や先生方、色んな方々との出会いを大切に、一人で悩まず、皆さんらしく頑張ってください。



Pro-IP6 の小細胞肺がんへの抗がん作用に関する研究

イノシトール6リン酸(IP6)という主に穀物や豆に多く含まれる化合物を用いて研究を行っています。

学部生時代の卒業研究ではIP6のプロドラッグ体(体や細胞の中で活性をもつようになるお薬のこと)の血小板に対する作用について評価をしました。それから研究に興味を持ち、現在は特にIP6のプロドラッグ体の小細胞肺がんへの抗がん作用について観察しています。

小細胞肺がんは進行が速く、予後が不良です。主に化学放射線療法が行われますが、再発や薬剤への耐性化が問題視されています。IP6の抗がん作用は他の臓器のがんでは報告がありますが、小細胞肺がんでは今のところ報告はありません。また、IP6の抗がん作用における詳細なメカニズムは、未だ不明な点が多く残されています。そこで私は、IP6のプロドラッグ体が小細胞肺がんに対して効くのかどうか、そして、その作用メカニズムを明らかにするための研究を行っています。

研究を進めていく中でうまくいかないことも多々ありますが、試行錯誤を繰り返し、ひとつずつ課題をクリアしていくことに楽しさを感じます。



大学院 保健科学研究科
臨床検査領域 1年
富田 聖さん

活躍する先輩たちのリアルな声が聞ける！

KHSU

OB・OG

就職活動ルポ

①在学中意識してやっていたこと ②就職活動中のことや、後輩へのアドバイス



2025年3月卒業（医学検査学科）

石本 凌大 さん

KMバイオロジクス株式会社

優先順位をつける

- ①何事もまずは優先順位をつけることです。そのためには、自分の得意・苦手を把握することが重要です。そして苦手な分野に関しては、トコトン時間をかけてください。すると、国家試験の勉強や忙しい際にも焦らずタスクをこなしていけると思います。
- ②大学4年生になると、就活・卒業研究・国家試験の勉強とこの時期は本当にやる事が多くて大変だと思います。しかしどれにも共通していえることは早めに取り掛かることが一番のカギだということです。まずは、春休みのうちから自己分析や自分が苦手な分野について少し考える時間をとってみてください。皆さんが納得した道に進めるよう応援しております。



2025年3月卒業（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻）

永野 巴菜 さん

※現 作業療法学専攻

作業療法士
熊本機能病院

笑顔で自信をもって

- ①私は在学中、大学やバイト先、旅先で出会った方など、色々な人と話すことを心がけていました。会話の中で自分の長所・短所を理解出来たり、興味の幅が広がる事で様々なことに挑戦し、学びを得ることが出来ました。在学中に得た経験は、就職面接や仕事、私生活でも役立っています。
- ②就職活動中は、面接日が近づくほど不安・焦りの気持ちが大きくなりました。しかし、就職・実習支援課の先生方のアドバイスを真摯に受け止め、面接を重ねる事で言葉遣いや伝え方を理解することが出来るようになります。わかりやすい言葉で笑顔で自信を持って伝えることが大切です。頑張ってください。



2025年3月卒業（看護学科）

小倉 幸希 さん

看護師
熊本大学病院

明確な目標を持って

- ①在学中に意識してやっていたことは、分からないことを積極的に先生に質問に行くことです。みなさん優しく、質問をしたら親身に答えてくださいます。そのため、授業や課題で分からなかったことをそのままにすることなく、その都度解決することができていました。
- ②大学には、就職・実習支援課があり、就職活動の手厚いサポートを受けることができます。面接練習を何度もしていただき、的確なアドバイスを受けることができ、また、履歴書の書き方のポイントなども丁寧に教えていただいたことで自信を持って採用試験に臨むことができました。後輩のみなさんも、明確な目標を持ち、先生や就職・実習支援課の方々に頼りながら就職活動頑張ってください。



2025年3月卒業（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻）

伊達 ひなた さん

言語聴覚士
朝日野総合病院

相談・病院見学を

- ①ボランティアやサークル活動、アルバイトなど学業以外にも積極的に取り組み多くの人と交流することを心がけていたことで、相手を理解して傾聴するコミュニケーション能力を高めることができました。現在は、患者様から「あなたにならなくても相談できる」と言っていたような関係を築くことや、患者様の意欲向上につながる関わり方ができています。
- ②進路に悩んだ時は専攻の先生方に相談し病院見学に行くこと、履歴書などで不安があれば就職・実習支援課に相談に行くことを意識していました。先生方が相談に乗ってくださったおかげで、少ない不安で採用試験に臨むことができました。就職活動中は不安が多いと思うため、誰かに相談し、積極的に病院見学に行ってみることが大切だと思います。



2025年3月卒業（リハビリテーション学科理学療法学専攻）

船越 海人 さん

理学療法士
おおつか整形外科

積極的に取り組む

- ①在学中は、自分の将来を見据えて、今の自分に必要なことに対して積極的に取り組むようにしていました。特に学生時代はスポーツ関連のボランティア活動の参加や学友会活動などに積極的に取り組むことで、臨床現場やスポーツ現場に出向いたときのアドバンテージになり、また、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力を培うことが出来たと思います。
- ②就職活動で最も大切なことは自己分析だと思っています。アイデンティティが求められる現代の世の中で、私はどう存在でどう貢献していくのかを売り込む為には、まずは自分自身と向き合う必要があります。きっかけ作りのためにも、挑戦してみるから始めてみてください。おのずとその経験があなたの個性になると思います。



2025年3月卒業（助産別科）

K さん

看護師
九州大学病院

自身の目標を明確に

- ①助産を学ぶ中で支援を行う対象者の理解のために、実習以外で地域の母子支援ボランティアに参加し、退院後を含めた母子の多様な倫理観・価値観やニーズを学び、生活理解を深めました。さらに、同学科の仲間や先生方と積極的に意見交換し、幅広い看護・助産の選択肢の中から自身の目標を明確にすることを行ってきました。
- ②看護師や助産師は就職に幅広い選択があると思います。その中で、自分がどのような看護や助産師の支援を行い、キャリアアップをしていきたいのかを在学中見つめなおすことが1番大切だと考えます。就職すると責任や緊張感が伴います。その中でも目標をもって就職先を選択することができれば、就職活動や就職後も頑張ることができると思います。

タイ・コンケン大学 交換研修生が来学

医療と文化の違いを実感し
友情を育んだ2週間

コンケン大学の学生ら7人が来学し、令和7年6月3日（火）、ウェルカムパーティーが開催されました。パーティーでは、コンケン大生らが拍手で迎えられながら入場し、「こんにちは、よろしくお願いします」などと自己紹介。竹屋元裕理事長・学長が「研修期間中、病院の見学や授業参加もあるが、熊本の観光も楽しんで、友情も深めてほしい」と歓迎の言葉を述べました。期間中、熊本大学病院と熊本医療センターの2施設を見学し、本学では各学科の講義や演習などに参加。休日は神社や美術館などを訪れ、日本の文化にも触れました。13日（金）のさよならパーティーとプレゼン発表では、研修生たちが2週間の研修を振り返り、医療における日本とタイの違いなどを報告。本学学生たちからのプレゼントを受け取る、笑顔を見せていました。



料理を頻りながら談笑する両大学の学生たち

韓国・大邱保健大学 交換研修生が来学

日本語でのあいさつで始まった研修期間
知育菓子や韓国料理で親睦を深める

大邱保健大学の交換研修生4人が、令和7年7月2日（水）に来熊しました。同日に行われたウェルカムパーティーでは、竹屋元裕理事長・学長が「滞在中は勉強とともに、本学学生との交流を通して友達を作ってほしい」と歓迎の言葉を述べました。その後、研修生が一人ひとり流暢な日本語で自己紹介をすると、会場に集まった教員や学生たちは驚いた様子で、大きな拍手を送っていました。期間中、研修生たちは、講義参加や施設見学に加え、本学の学生とともに知育菓子作りや、韓国料理を調理するなど盛んに交流。10日（木）に開催されたさよならパーティーでは、各国の大学の違いや、研修期間中の交流や体験について日本語で発表しました。最後には顔見知りとなった本学学生たちと別れを惜しむ様子も見られました。



チヂミづくりを楽しむ研修生と学生たち

クラブ
サークル
紹介

【アルティメット】

私たちはアルティメットサークルです。毎週金曜日に活動しており、部員は40名程在籍しています。アルティメットとは、ディスク(フリスビー)を使ってパスを繋いでいき、相手の陣地まで運ぶことで得点が入るといふスポーツです。7人制や5人制などがあり、試合の中でそれぞれのチームの戦略が飛び交っているのも特徴です。ほとんどが、大学生で初めてこの競技を知ったという人ばかりなので、練習についていけないかもという心配はしなくても大丈夫です!基礎からゆっくりと、そして丁寧に教えるためすぐに上達できます。また、部員同士の交流も大切にしているのも特徴です。他学年や先輩方とも気軽に会話を楽しむことができ、笑顔が絶えない練習となっています!忙しい大学生活の中で、仲間たちと楽しく体を動かしてみたいと思っている方。ぜひ、アルティメットサークルに一度足を運んでみてください。みんなで待ってます!



【吹奏楽部】

私たち吹奏楽部は、現在不定期で活動しています。活動内容は文化祭や地域のイベント等に参加したり崇城大学の吹奏楽部のみなさんと一緒に定期演奏会を行ったりしています。部員は13名で、高校までやっていた人や中学校までやっていてブランクがある人など経歴もばらばらです。だからこそ、曲の練習の時はより良い演奏にするために互いに教えあうことができます。演奏していて音がばっちり重なって美しいハーモニーを奏でることができた時は、吹奏楽をしていてよかったという気持ちになるし、楽しいしやりがいを感じます!楽器を持っていなくても、他の大学から借りることもできるので楽器の心配もなくて大丈夫ですよ!徐々に楽器を吹きたいなと思っている人や、吹いたことないけど楽器が吹けるようになりたい人もぜひ、吹奏楽部に入ってみませんか?



Library

図書館ホームページ <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/>

○2月日曜祝日開館!

国家試験勉強の応援として、通常の夜間開館と土曜開館に加え、日曜と祝日開館を実施します。寒さ対策として、貸出用ひざ掛けブランケットも準備し応援しています!

○『私の部屋でランチを』2025年5月～11月

『私の部屋でランチを』とは、教員や学生の

話を聞いて、新たな発見や出会いと学びの共有空間です。今年は、①アメリカや韓国、タイへの短期留学報告会、②キャリア教育研修センター認知症看護分野の皆さんの経験談や看護師魅力の発表、③助産別科生の皆さんのワクチンで予防に関する発表など、貴重なお話と参加者とのディスカッションが行われました。

○「選書ツアー」再開!学生が書店で本を選びました!

学生さんと教職員が書店にて、学修や研究に役立つ本など、自由に本を選ぶことができます。参加した学生さんは、また参加したいというれしように話していました。選んだ本は、「選書ツアー展」として、図書館内で展示しています。どうぞご覧ください。



○ニーズに合わせた文献検索のための講義・演習実施中!

論文や情報検索の方法について図書館が契約している医学医療専門のデータベースを使い説明し、実際に文献を探し出す演習も行います。学修、研究だけではなく、卒業・就職後も役立つ内容です。

図書館蔵書の中から

— 図書館蔵書の中から 本学教員執筆図書のご紹介 —

『スポーツする英語文学』サウンディングズ英語英米文学会 監修

杉野健太郎/下楠昌哉編 田中恵理ほか執筆 金星堂 2025.5発行

【配架場所:教職員著作物コーナー(933.7)】



「人間はクマと共存できるか？」



大学院
保健科学研究科長
前田 ひとみ

ここ数年、クマによる人身被害が増加しています。クマによる被害は日本だけでなく、ロシアやトルコ等でも深刻化しているようです。九州でも以前はツキノワグマが生息していたそうですが、2012年に環境省から絶滅が宣言されました。「共存」と「共生」、似たような言葉ですが、「共存」は二つ以上のものが同時に生存することを意味することから、どちらかが欠けたとしても存続できる、つまり一緒にいても問題がない関係です。一方、「共生」は双方が互いに支えながら生活することを意味することから、どちらか一方が死滅すると他方も生き続けることはできません。

人里でのクマの出没が増えた理由について、環境省は中山間地域の人口減少や高齢化による防御力の低下、耕作放棄地の拡大による放任果樹の増加をあげています。人間は、自分たちが生きるために、他の生物を排除したり、新たな作物を植えたりして、生態系に影響を及ぼしてきました。クマ対策としては、①クマの生息地にはむやみに入らない、②柿などの果実やクマを誘引する農作物を適切に管理し、クマを人里に引きつけないようにすることが重要だといわれています。良好な人間関係を築くには、適切な「距離感」が重要で、誤った「距離感」はトラブルの原因にもなります。人間とクマが共存できる適切な「距離感」を保つために、どのような工夫ができるのでしょうか？

基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力をもつ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会について洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術をもつ人材を育てる

将来ビジョン

保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

Vision 1

社会の変化に対応し、リーダーシップを発揮できる医療技術者の養成

ビジョン 1-1

教育改革の推進と
学生ファーストの修学支援

ビジョン 1-2

独創的な研究の推進と
大学院の充実

Vision 2

地域に根ざし、地域と共に歩み、
社会の幸福実現に貢献

ビジョン 2-1

教育・研究
組織の充実

ビジョン 2-2

魅力的な教育・
研究環境の充実

Vision 3

10年後も20年後も選ばれ続ける
ためのブランド力の強化

ビジョン 3-1

学生・教職員の国際力の
向上と海外の大学等
との連携強化

ビジョン 3-2

教員と職員が協働する
効率的・合理的な
職場環境の構築

「熊保大夢基金」
お礼とお願い

本学園では、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実を目的として、「学校法人銀杏学園 熊保大夢基金」への寄付をお願いしております。令和7年度前期におきまして16件2,547万円の御寄付を頂きました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名 (令和7年度前期分、掲載御許可を頂いた方のみ、五十音順)

(医)愛育会福田病院様 赤池紀生様 井手野紀子様

(福)恩賜財団済生会みすみ病院様 (一財)化学及血清療法研究所様 梶島健様 KMバイオロジクス(株)様 凌奈緒子様

(医)寿量会熊本機能病院様 杉光定則様 高野真様 廣田晋一様

頂いた御寄付は、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実へ活用させていただきます。引き続き基金の趣旨に御賛同頂きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

御寄付の申込方法は「インターネットによる方法」と「書面による方法」の2つがあります。詳細につきましては公式WEBサイト<https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/about/donation.html>を御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。

編集
後記

パワフルなステージや温かいおもてなしに溢れた学園祭。躍動する学生一人ひとりの姿は、眩しいほどに輝いて見えました。例年秋に開催されますので、ぜひ会場へお越しください、その熱気と活気をご体感ください。



熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において令和2年度大学機関別認証評価を受審し、令和3年3月16日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。

本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。